

日本の学校の新教育課程における 道徳教育と今日的課題

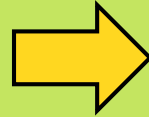


2012.9.19 於：北京師範大学
昭和女子大学 教授 押谷由夫

新教育課程における道徳教育の特徴 (今日の日本の道徳教育の現状)

【学習指導要領の改訂】

2008年(幼稚園・小学校・中学校)
2009年(高等学校、特別支援学校)



道徳教育の充実が強調

(1)改正教育基本法が求める道徳教育の実現

① 人格の完成を目指した教育の一層の強調

教育の目的は人格の完成

【改正教育基本法】

- ・ 「人格の完成を目指す」ことを目的としている (第1条)
- ・ 第3条 (生涯学習の理念) 「…自己の人格を磨き、豊かな人生を送る…」
- ・ 第11条 (幼児期の教育) 「…生涯にわたる人格形成の基礎を培う…」

幼児期から生涯にわたって人格の完成を目指した教育を中心的に行う

② 人格の基盤は道徳性

人 格

【改正教育基本法】第2条（教育の目標） 5項目を明記

1. 知・徳・体にわたって調和的に養うこと
2. 3. 4. 5. 共通して「・・・の態度を養う」と書かれている

→ 心構え・生きる姿勢

（・・・の中には、基本的な道徳的価値が示されている）

人格とは、人間としての特性であり、人間としての在り方や生き方の基本を創る道徳的価値意識をしっかりと育み（徳）、その土台の上に知識や技能を身につけ（知）、健康な体を創っていく（体）ことが大切であると述べられていると解釈できる。

人格の完成を目指した教育とは、道徳教育を基盤とした教育

(2)道徳の時間を要として全教育活動で道徳教育を充実させる

① 各教科における道徳教育の充実

各教科における道徳教育は各教科で学習する内容が自分の生き方や道徳的価値意識とどのように関係するかを押さえて授業をすること。また、みんなと一緒に学習すること自体が道徳教育の実践でもある。



② 要としての道徳の時間の充実

道徳の時間（道徳教育を中心的に学ぶ授業の時間）

道徳的実践を支える内面的な力（道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲・態度）を、他の教育活動における道徳教育を踏まえて、計画的・発展的に育む。



【さまざまな課題】

- ・心に響く資料を選び、心に刻む授業をどう工夫するか。
- ・どのように自己を見つめられるようにするか等。

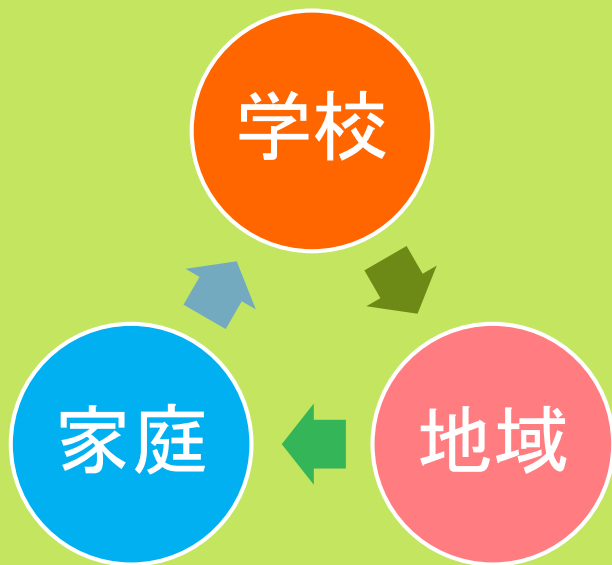


③ 道徳的体験としての特別活動の充実

特別活動（子どもたちの望ましい集団活動を通して一人一人の個性をのばす）

- ・体験を通しての道徳教育
- ・道徳的体験や実践を通して内面的な道徳性を育てる

④ 学校、家庭、地域が連携した道徳教育の推進



道徳教育は子どもの生活全体の中で行われる。学校と、家庭、地域が連携することが大切。道徳の授業を親や地域の人々に公開したり、授業そのものに参加してもらったり、地域の文化財や伝統、偉人などを取り上げて授業をしたり、道徳教育祭りのようなものも提案されている。

今後の課題

(1) 道徳教育は教師自身の課題でもあることの自覚

学校の先生は、道徳教育は子どもたちの課題だと考えがち。道徳教育は、教師自身、親自身の課題でもある。その自覚をしっかりと持たないと、返って子どもたちとの心の距離を広げてしまう。

道徳教育において大切なのは、**ともに理想を求めて助け合い鍛えあうこと**である。

そのレベルでは教師も子どもも同じである。ただ違うのは、教師は経験と学問を積んでいることである。その視点からしっかり指導できることが大切なのである。

人格の完成

(道徳的価値の追究)

人生の目的

羨望
(志・愛)

羨望
(志・愛)

教師

教師Ⅱ

(経験や学問と接した教師)

教師Ⅰ

(人間としての教師)

子ども

感化 (薫陶) ・ 指導
尊敬 ・ 模倣 (モデリング)

共感

共感

(2) 道徳的実践力と道徳的実践を響き合わせる指導の充実

道徳教育は自律的に道徳的実践のできる子どもを育てるものである。

そのためには道徳的実践を支える内面的な力の育成が大切（道徳の時間が道徳教育の要になっている）。しかし、そこで終わりではなく、実践へとつなげていかなければならない。

道徳的実践とは道徳的価値を自分らしく追い求めることである。そのための指導として**総合単元的道徳学習**を提案したい。

道徳的環境づくり



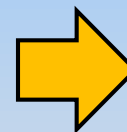
道徳的実践力



道徳的実践

(道徳的実践を支える内面的な力)

(道徳的価値の具体的追究)



習慣化
(日常化)

道徳性を育む4つのかかわりと求められる力



自分自身

自分を見つめ、
鍛える力



他の人

相手の立場に立って考え、
思いやれる力



自然や崇高なもの

美しいものや生命力を感じ、
追い求める力



集団や社会

集団や社会に参画し、
よりよく生きる力

(3) 道徳の時間を特別教科にすること

道徳教育を充実させるには、教育課程における確実な指導と教材・教具の確保、優れた指導教員の養成・確保、現職研修の充実、研究者の養成、研究の充実が不可欠。

そのためには、道徳の時間をどうするかがポイント。道徳の時間は教科ではないという位置づけだと教育課程全体における立場が弱くなる。むしろ**特別教科**（単なる教科ではないという意味を含めて）にする。そのことで先に挙げた課題も格段に改善される。

特別教科道徳の構想（案）

特別教科

【特別教科道徳の意味】

- ・ 全教育活動で行われる道徳教育の要の時間であり、各教科等での取り組みを踏まえて行われ、かつ各教科等の道徳教育に影響を与えるものとして位置づける。
- ・ 家庭との連携、地域との連携、学校経営・学級経営の要としての役割も果たす。

【時 数】

週2時間

【授業担当者】

- ・ 原則として担任とするが、道徳教育専任の教師を各学校に一人はおく。

【教科書の発行】

- ・ 様々な価値の側面から人間としての在り方や生き方を考えさせる素材となるものということであれば検定は可能
- ・ 教科書を見れば、特別教科道徳の特質が分かるものにする（道徳的価値の自覚を心情面、判断力の面、意欲・態度の面から深める教材。各教科等における道徳教育との関連、日常生活、家庭や地域での道徳学習との関連を図れる教材。自分を見つめる方法、自分を勇気づける方法、他人を認める方法、心を伝える具体的行為とその意味を考え伝える教材。わが国が大切にしてきた人間としての生き方やあり方を伝える教材等）。
- ・ 教科書を見て確認したり、読み直したり、振り返ったりしていろいろな場面で活用できるようなものを工夫する（親子でも学べるものにしたい）。
- ・ 教科書と併用して多様な補助資料（副教材）が使えるように編集を工夫する。

特別教科道徳の構想（案）



【教員免許及び研究体制の充実】

- ・ 特別教科道徳の免許は創る。それは、従来の免許に必要な単位にプラスして道徳の専門科目を例えば8単位とれば与えられるとし、特別教科道徳の免許はどの免許状の取得においてもあわせて取得しなければならない、とする。
- ・ 教職課程をおく大学には道徳教育担当の教員を置かねばならないとする
- ・ そのために大学・大学院・研究所等で道徳教育研究講座を充実させる。

【評 価】

- ・ 点数評価，ランク評価はしない。観点別評価と自由記述の両方が自由記述のみにする。
- ・ よさに目を向けた実態把握を基本とする。子どもの自己評価も加味する。